

連携テーマ ～地域を愛する生徒の育成～

中高一貫教育だより

発行：羅臼町中高一貫教育協議会事務局 平成23年11月10日 第2号（通算13号）

・どうする？ ・羅臼町の中高生の学力 ・高めるには

羅臼町中高一貫教育「合同研修会」

・小中高で考える学力 ・家庭地域との意識の共有化

夏休み中の7月25日（月）に、羅臼小学校多目的教室に町内3校の中学校と高校の先生方・町教委職員の方々が一堂に会して「羅臼町中高一貫教育の現状と課題」について、提言者からの発表と全員での話し合いが行われました。その内容の中心は、多くの羅臼町民の関心が高い、中高生の学力の現状とその向上をどのようにすべきなのかという事が、重点に話し合われました。そこで確認されたことは、羅臼町の学力の向上の為に、中高生の学力の基礎となる小学校2校との連携が不可欠であること。また、羅臼町の実態として学力についての考えは、家庭・地域の意識の差が大きく、それを如何に学校が共有化を図り、埋めることが出来るかが大切であるということが話題となっていました。



『子どもの未来とユネスコ』

前ユネスコ事務局長 & 高橋はるみ知事来町

毎年、様々な分野で活躍する方々のお話を聞き、自分の生き方を考える学習（キャリア教育）として「中高一貫合同講演会」が羅臼高校体育館で8月31日（水）に行われました。

今年の講師の先生として、知床が世界自然遺産に登録された2005年当時、国連のユネスコの事務局長だった松浦晃一郎氏に来て頂きました。

また、高橋はるみ北海道知事も市町村訪問の一環として道東各地を巡っていたことから、来町されました。この日は、中高生だけでなく一般の町民の方も参観し、松浦氏の当時の知床の登録の話聞く、貴重な機会となりました。

知床・らうす・世界自然遺産の生き物① 「天地創造の神話の鳥 ワタリガラスの話」

知床からカムチャツカ、アラスカへと続く、先住民族の人々の間で天地創造の神話を持つ鳥として“ワタリガラス”がいます。カラス類の中では最大でトビ程の大きさのカラスですが、日本では道東の一部に厳冬期になると少数が渡来します。羅臼町でも真冬にエゾシカやアザラシ類の残滓を求めて渡来します。ワタリガラスの特徴は鳴き声が非常に複雑で幅広い声を持っており、仲間とのコミュニケーションにも使われる程、知能の高いカラスとされています。



左からワタリガラス、ハシフトガラス、ハシボンガラス

漁火祭りでも中高一貫生徒会・大活躍！！

今年の漁火祭り（9月17日・18日実施）でも、中高一貫の生徒会が頑張りました。羅臼高等学校・羅臼中学校・春松中学校の3校の生徒会が春の知床開きに続き、被災地校への募金活動を「漁火祭り」で実施しました。支援は一過性のもではなく、息の長い支援にしようとの考えですが、当日は大雨の中にも関わらず、6万円を超える募金が集まりました。ご協力頂いた皆様ありがとうございます。



また、羅臼高等学校と羅臼中学校の両校合同の吹奏楽部の演奏があり、迫力ある演奏で「漁火祭り」そのものを盛り上げてくれました。皆さん、御苦労様でした。

町内清掃ボランティア実施

10月6日・木曜日実施

毎年恒例となっています、中高一貫清掃ボランティアが大雨の中、実施されました。ただ単に清掃やゴミを拾うというだけでなく、世界自然遺産の知床・らうすの町にふさわしいマナーとモラルを育て、広く町民にも町の美化意識を広めようとするのがこの活動のねらいです。

当日は、羅臼高等学校・羅臼中学校・春松中学校の全校生徒が参加し、羅臼高等学校の生徒が各班の中心となって中学生と共に、町内11の区域で清掃活動を展開しました。

その結果、合計380Kgを超えるゴミを収集できました。この事は、大雨の中で中高生が頑張った結果ではありますが、今まで以上に町民の皆さんや観光客の皆さんの世界自然遺産の町を美しく保つという意識を、高めて行く必要があることを再認識しました。

次世代を担う羅臼町の中高生が今回のボランティア清掃を通して、少しでも理想とする世界自然遺産「知床・らうすの町」にして行こうと一人ひとりが自覚し、その意識を高め、より広めてくれることを期待しています。



知床学士・認定試験

知床に対する理解を深め、知床の自然を未来に長く遺していけるような人材の育成と来訪者に説明できる力の育成を目指した、「知床学士」の認定試験が、今年度も下記の要項で実施されます。対象は羅臼町内在住の中高生です。一人でも多く合格してほしいですね。

検定実施日 平成23年12月18日（日）
願書受付開始 平成23年12月5日～12日まで
合格発表 平成24年 1月23日（月）

